

南三陸町での活動について

仙台社会保険病院 川名 豊



一般撮影の様子

4月4日に前任の田屋に代わって南三陸町入りしました。引き継ぎによるとイスラエル医療チームが入ったことによって、私たちの検診バスの利用が皆無になったとのことでした。しかし、イスラエル医療チームの在日期間が不明のため、志津川病院の技師に社会保険病院の検診バスの使い方を4月11日までの一週間で教えて、帰国する予定でした。

4月6日までは前任者の話した通り、全く仕事が無く自衛隊からもらう軽油とガソリンをバスの発電機や巡回用の乗用車にどう効率よく入れるかを考え、巡回されている方々への昼食の準備で終わっていました。

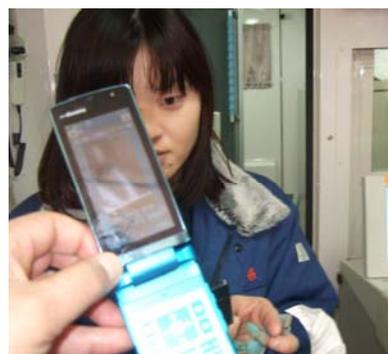
運命の4月7日、夕方初仕事が入りましたが、登米の旅館への帰宅途中のためできませんでした（電気がない夜の町並みは危険なため戻れませんでした）奇しくもここまではイスラエルに完敗でした。

しかし、その日の夜、栗原での震度6強の余震でガラッと変わりました。イスラエル医療チームは地震のため、南三陸町には来られず、朝からレントゲンの依頼が続きました。胸部専用と胃専用DRで指から足先まで全身を完全カバーしていました。踵骨2方向のオーダーにも完璧に応えました。ただ、一名大動脈瘤疑いの方だけは「CTが欲しかったよね！」とドクターにつぶやかれたことが無念でした。

イスラエル医療チームがレントゲン装置を寄付していくことがわかり、私は検診バスと一緒に帰国できるかと思いきや、イスラエルの機械をすぐに使えないときの為に残って欲しいとの志津川病院のドクターからのお願いに三日間私の帰国が伸びてしまいました。

私的にはイスラエル医療チームに完全勝利で帰国しました。でも、10日間は長かった。

仙台市の看板・行列のないGS・ヒビの入った病院を見るたびに涙が・・・



液晶モニターを携帯で撮影し、赤外線送信している様子